

安城市民ギャラリー運営委員会

令和4年11月18日(金)
午後3時30分～午後4時45分
安城市歴史博物館2階：講座室

1 あいさつ

2 協議事項

(1) 令和4年度安城市民ギャラリー利用状況について

	(指定管理者による説明)
委員	今年度の9月以降来館者も増え、講座などへ申し込まれる人も増えている様子。コロナ前に戻ったか？
事務局	増えてきている。他市の博物館や美術館の改修工事に伴う閉館などもひとつの要因だろう。

(2) 令和4年度安城市民ギャラリー事業報告について

	(事務局、指定管理者による説明)
委員	銅版画・リトグラフ講座の受講生から、安美展に出品してくれた方々があり、中には入賞した方もおられる。版画の受講生も出品できるよう、安美展の規格も変更していたのもあり、こうした成果があってよい。引き続き出品してほしいと思う。
事務局	19年前に講座を始めて、安美展に出品する作家を育成したいという一つの理想があった。
委員	公募展や企画展など、事業と講座のリンクがうまく機能している。企画展に連動して日本画講座をやっていたが、いかがだったか。
委員	広報の文章が、日本画というハードルを下げてうまく伝わったようで、10人定員のところ16人も集まってくれた。
事務局	日本画は画材が高価であり、公民館講座ではやりにくいジャンルだと思うため、市民ギャラリーでやる意義があったと思う。また、亡くなった作家から画材の寄贈があり、それも活用させていただいた。
委員	作家のご遺志を継ぎ、講座などで活用できるのはよい。
委員	若い女性が多かった印象。1回講座では深くまで教えることは難しいが、モチーフや絵は用意して、それを転写していただき、岩絵具、顔彩など、日本画独特の画材に触れてもらえるようにした。
委員	日本画は、工程も多く、1回講座でできる限り満足度を上げるために、企画展「人、色、模様」に関連させて「色」に注目してもらうようにした。

委員	1回講座でも、方向性をしぼり運営することで満足度をあげることができる。
委員	そういった講座に参加した方が、さらに深く学びたいと思い、自主グループなどに加わっていただけるといいと思う。
委員	すでにあるグループに加わるのは、中々難しい様子。

(3) 令和5年度安城市民ギャラリー事業計画について

	(事務局、指定管理者による説明)
委員	特別展「大正イマジユリィの世界」は作品の募集を行う予定か。
事務局	企画会社を通じて、コレクターの作品をお借りする予定。
委員	今年度は砺波市との交流展もあり、来年度は市民ギャラリーの20周年と記念続きの事業。
事務局	記念事業以外にも、小中学校に作品募集を呼び掛ける「美術で味わう 市民ギャラリーレストラン展」は、分かりやすいテーマを目標に、切り口を食べ物にして子どもたちにとって取り組みやすいようにする。部活動の地域移行もある中で、子どもたちにとって市民ギャラリーが、美術を通じてひとつの居場所になればと思う。
委員	ギャラリーと食べ物というテーマは意外性があってよい。
事務局	食べ物、と分かりやすいモチーフとして説明するが、想定としては「静物画」である。
委員	学校では子どもたちがそれぞれ地域の講座に出かけていることは把握しきれるものではないからこそ、評価の場では公平に作品を審査する。積極的な受講は素晴らしいと思う。 レストラン展というタイトルは、子どもたちにとっても取り組みやすいだろう。「静物画」というが、笑顔で食事している風景など、ぜひ広いテーマで募集してほしい。 近年、文化部で居場所を見出す子も多く、地域に好きなことができる居場所が増えるのはありがたいことに思う。
事務局	市民ギャラリーの講座で、自分の好きなことを見つけ、表現していってもらえる場を提供できればと思う。
委員	ポスターを描く宿題などでも、宿題として取り組むのでは楽しくないだろう。表現する楽しみを感じてもらえれば、親もまた一緒に取り組むことになるだろう。
事務局	今年度は、企画展への出品を目指した絵画の講座を行った。技術などを伝えれば、よい反応が返ってきた。あと一歩というアドバイスが、彼らにとって楽しみにつながると感じた。
委員	ポスターを描く講座が指定管理事業にもあるが、自分も指導する中で、ポスターのテーマをよくわかっていない子もいるように感じる。どのようなテーマなのか、飲み込んで作品制作に打ち込めればよいと思うが。交通安全のポ

	スターでも、厳しいシーンをただ描くんじゃなく、テーマを自分なりに考えて表現できるとよいと思う。
委員	コロナの影響で、ポスターや絵画制作が本当に描きたいと思って描く子たちの出品になってきている。学校ごとの担当の先生が、どこまで熱意をもって子どもたちに伝えられるかが大事になってきている。
委員	安美展のグリーンリボン賞は、第1回から収蔵している？
事務局	全ての作品を収蔵しているわけではない。来年度予定している企画展においては、収蔵のほかに近作についても呼び掛けていく予定。
委員	大正イマジュリィは本の装幀など複製図像の展示ということで、純粹芸術といわゆる人々の目を魅了してきた大衆芸術とでも言おうか、幅広い芸術の展示に繋がるだろう。

(4) その他

事務局	今年度の市民公募文化事業（美術部門）の若手作家2名はいずれもインスタレーションを予定しており、また来年度の若手芸術家応援プログラムの作家は、ペインティングなどでなく、鑑賞者の認知と展示空間、映像を駆使して表現するものになる予定。愛知国際芸術祭においても殆どに映像が使われており、徐々に新しい表現が当たり前になってきて、市民ギャラリーも徐々にそういったものに挑戦していく。委員の皆様におかれましてもぜひご覧いただければと思う。
-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 連絡事項